

この地区は、都営長房団地の造成に先だつて昭和46年(1971)8~9月に発掘調査されました。この古墳はその際に発見されたもので、墳丘が削平されていたため、古墳があることは知られていませんでした。直径14m、幅約1mの周溝をめぐらした小規模な円墳です。中央部に長さ4.7m、幅2.7mの河原石を積んだ石室があり、この部分に遺体を埋葬したものです。過去に盗掘されたらしく、副葬品は残っていませんでした。この古墳は、7世紀前半ごろに築かれたと考えられています。現在この古墳は保存のために埋めもどしてありますので、その場所がわかるように色の違う石を並べてあります。

発掘調査時の全景 石室



撮影:PLBechly | [https://commons.wikimedia.org/wiki/File:2022\\_Megalodon.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:2022_Megalodon.jpg)

## 09

### 船田古墳

Maker: プレート運動

Date: 7世紀前半頃

Medium: 古墳の上に土、舗装

長房団地の公園の地表に貼り付けられた円と方形の舗装は、地下に埋められた船田古墳の形を浮かび上がらせている。表面を覆い隠すと同時に表面のさらに下にあるものを浮かび上がらせるそうした平面は、これからの芸術作品のあり方を考える大きなヒントになるだろう。掘り出された古墳の姿がプリントされた看板は、うっすらと黄砂とコケに覆われ、陸に上がった巻貝たちの食痕が描かれている。

## 10

### 関東ローム/赤玉土

Maker: 偏西風など/株式会社カインズ

Date: 180万年前以降/2022年

Medium: 地面の上に黄砂など/砕かれた地面

黄土色の顔料でもある黄砂が巨大なインクジェットプリンターのように関東のあらゆる場所に何万年にもわたって降り注ぎ、フォッサマグナ(大きな溝)を覆い隠していく。やがてはすべてが黄土色に塗りつぶされた新しい大地が現れるだろう。長房のカインズホームでは、100万年以上にわたって降り注いだ関東ロームがパッケージされたものを「赤玉土」として購入することができる。

ジェネラル・ミュージアム ツアー&カンファレンス3

ミュージアムを発見〈コラーージュ、カムフラージュ、dis/cover〉

2022年7月17日(日) 11:00-15:00

詳細は <https://generalmuseum.wixsite.com/abcd>



長房町 2019年 | 国土地理院の空中写真 | <https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do?specificationId=1875282>



長房町 1979年 | 国土地理院の空中写真 | <https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do?specificationId=986059>



ジェネラル・ミュージアム ツアー

## コラーージュ、カムフラージュ、dis/cover

00《コラーージュ、カムフラージュ》展と《dis/cover》展の受付

02《段差》

03《ショッピングセンターCopio》

04《長房団地》

05《コインランドリー》

06《故障中のクリーニングマシーン》

07《防草シートの緑の地表》

08《つつじヶ丘緑地/つつじヶ丘トンネル》

09《船田古墳》

10《関東ローム/赤玉土》(カインズホーム)

## 01

### 舟田丘陵

Maker: 関東造盆地運動

Date: 約200万年前以降

Medium: 隆起した地面

国土地理院のサイトからインクジェットでコピーされた古い航空写真を見ると、長房町が広大な関東平野(盆地)と関東山地のちょうど境界に位置する舟田丘陵の上にあることがわかる。住宅地に残された小高い森は、都市化された地表の奥深くで岩盤が運動していることを顕在化させている。今も沈下し続ける関東平野と、隆起し続ける関東山地の高低差が地層に埋葬された連綿たる時間の比喩となって、町のいたるところに露出している。

## 02

### 段差

Maker: プレートテクトニクス、宅地開発業者など

Date: 1950年以降

Medium: 露呈した地面の高低差

地面の隆起と沈下が多様なグラウンドレベルを生み出している。そうした複数の地面の落差は垂直な壁として現れている。長房町では、ある人の住居にとっての天井の高さが、隣のある人にとっての床の高さとなる。基準となる地は存在せず、多層的な地が混在している。そこでは、墓や遺跡や化石といった地面の下に隠されているはずの過去がいたるところに露出している。ある人にとっての現在が、隣のある人にとっての過去となる。

## 03

### ショッピングセンターCopio

Maker: 市場経済、株式会社スーパーアルプス

Date: 2021年

Medium: 鉄骨造一部鉄筋コンクリート造、従業員、商品

長房の新しい中心地、ショッピングセンター「コピオ」は、「コピー」をテーマにした施設だ。植物やチェーン店の自己複製とドミナント戦略、野菜や日用品のパラツキのない品質。そこにはひとつしかないものではなく、コピラス(豊富)なものだけがある。カフェの上に掲げられた「copio」のタブローは、建物の内部に人を誘い込む看板ではない。ふたつの「copio」はお互いを指示し合いながら内部のない表面を形成している。





#### 04

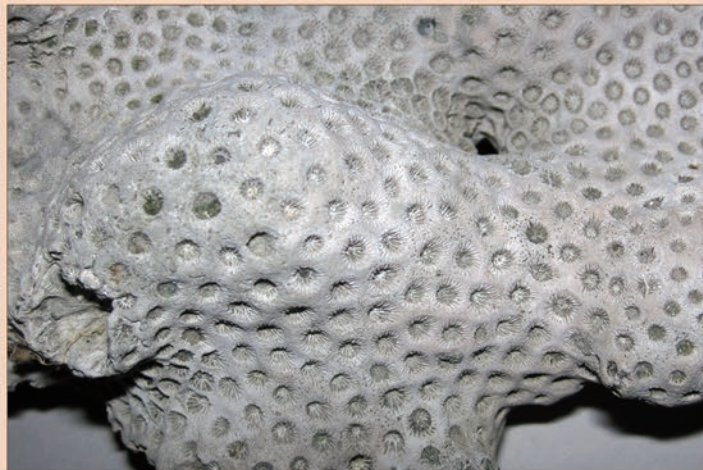
##### 長房団地

Maker: 東京都住宅供給公社

Date: 1964年以降

Medium: 太平洋から運ばれたサンゴ由来の石灰岩など

ショッピングセンターCopioの2階のデッキは団地を見るためのギャラリーとなっている。そこでは全視野が団地のパノラマで覆われ、地表のすべてが団地で覆われた世界にいるかのような感覚におそわれる。立ち並ぶ長房の団地群は、南の海からプレートに乗ってやってきたサンゴの残骸から生成されたコンクリートで作られている。そしてサンゴ礁のように集合した住環境を形成している。これらの団地群は太古のサンゴ礁の壮大なモニュメントとなっている。



#### 05

##### コインランドリー

Maker: 日光、風雨など

Date: 推定1970年代以降

Medium: 積層合板の上に人工樹脂、印刷された紙など

新栄商店街は長房町の高齢化について考えさせる場所だ。代謝によっては消すことのできないものが蓄積し世界を老化させていく。汚れたものを再びクリーンにしようとするクリーニングとは、エントロピーの法則に逆らって過去へ遡行しようとする虚しい行為でもある。外壁には、未来へ前進することを訴える選挙のポスターが貼られている。クリーンな服とクリーンな政治のある未来。しかし日光によって漂白され、風雨によって洗い落とされた壁はクリーニングの暴力的な本質を表現している。デコラージュされた外壁に残った純白の外装材は、白色の中に、新しさの感覚と死の感覚を混ぜ合わせている。



#### 06

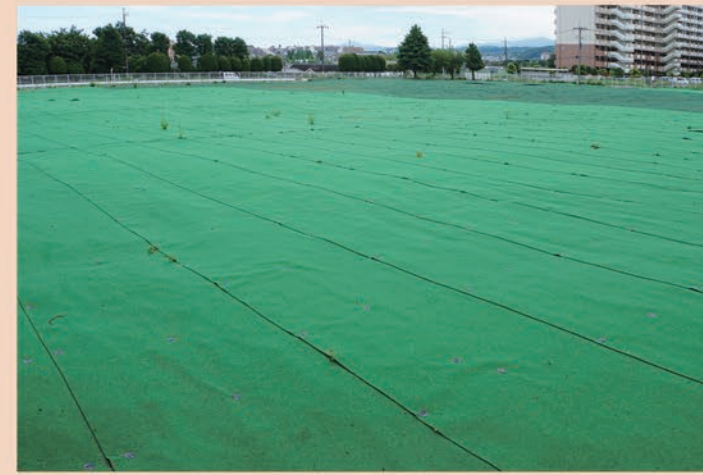
##### 故障中のクリーニングマシン

Maker: 三洋電機、コインランドリーの利用者

Date: 推定1970以降

Medium: 鉄、アルミ、ガラス、合成樹脂、度重なる使用など

閉店したコインランドリーは疲弊し、ストライキを起こしたクリーニングマシンたちを展示するガラスケースとなっている。労働を自動化したいという期待が、決して死ぬことのない機械にかけられた。しかし、なんらかの設計外の出来事が生じ、すべての機械は停止している。これらの機械がまた動き出すことはあるだろうか。論理的には、どんなに老化した機械も、部品の交換によって修理することができるだろう。機械は、決しておとずれない死の瞬間に向かって永遠に壊れ続けている。



#### 07

##### 防草シートの緑の地表

Maker: 光合成細菌など

Date: 2022年

Medium: 化石燃料から分離された合成樹脂

新栄商店街の裏手には防草シートに覆われた緑の地面が広がっている。防草シートは日光を遮断することで植物の光合成を妨げている。こうしたシートはポリプロピレンやポリエステルといった化石燃料由来の合成樹脂でできている。そこには緑色の光合成細菌が大発生していた20億年前の世界が再現されている。この場所では、地下に積み重なった光合成細菌の死骸が石油となって再び地表に吸い上げられ、緑のシートとして地表を支配している。



#### 08

##### つつじヶ丘緑地/つつじヶ丘トンネル

Maker: セントラルコンサルタント株式会社など

Date: 2007年

Medium: 掘削された丘陵

つつじヶ丘緑地/つつじヶ丘トンネルは経緯度上は同じ場所にある。関東山地に連なる舟田丘陵の面影を残す緑地と関東平野の都市に連なる舗装された道路がふたつの地面となっている。古代の巨大ザメ、メガロドンの口を擬態したトンネルの入り口を徒歩で越えると、埋没した過去の空間、あるいは、捕食されたり埋葬された後の未来の空間を体験できる。トンネルの中では、自動車から発する化石燃料の爆発した振動が出口を求めて壁にぶつかっては跳ね返り、ついには力尽きて消えていく音を聞くことができる。

